

平成 28 年度
学校評価報告書
(自己評価・学校関係者評価)

四国医療専門学校

1. 自己評価について

対象期間：平成 28 年 4 月 1 日（金）～平成 29 年 3 月 31 日（金）

実施期間：平成 29 年 4 月 4 日（火）～7 月 4 日（火）

2. 重点目標

- 1) 入学者 303 名以上
- 2) 退学者の低減 4%以内
- 3) 国家試験合格率 95%以上
- 4) 学校創立 60 周年事業の実施
- 5) 教育内容の充実

3. 目標達成のための具体的事業計画、行動計画

- 1) 学生募集の強化
- 2) 教員の指導力の向上
- 3) 資格取得対策の強化
- 4) 記念事業の組織を作り企画運営
- 5) 柔道整復学科、鍼灸学科のカリキュラム変更

4. 学校関係者評価について

学校関係者評価委員会開催

日時：平成 29 年 7 月 16 日（日）13:00～14:45

出席者 10 名、委任状提出者 5 名、欠席者 1 名

会場：四国医療専門学校 3 号館 204 教室

1. 教育理念・目的・育成人材像

自己点検評価 **A**

A：十分である。**B**：おおむね十分である。**C**：やや不十分である。**D**：不十分である。

点検項目に対する現状認識・課題・今後の改善方策等	学校関係者評価・意見
・教育理念は明文化されており、学内外へ広く公表されている。 ・学校の教育理念は建学の精神とともに定められており、教職員・学生・保護者・その他学校外へもさまざまな手段で公表されている。 ・今後も教育理念を学外に広く公表し、社会や業界のニーズに合った人材育成を行う。	・特に意見なし。

2. 学校運営

自己点検評価 **A**

A：十分である。**B**：おおむね十分である。**C**：やや不十分である。**D**：不十分である。

点検項目に対する現状認識・課題・今後の改善方策等	学校関係者評価・意見
・医療系の養成施設であることから、法令上の運営基準がきめ細かく定められており、それを遵守する形で、自ずと学校運営の適正は一定水準の確保がなされている。しかし、学科毎に法令・制度が異なることから学科単位の運営に偏りがちになる傾向にある。 ・前年度の評価作業を通じて浮上した問題点の改善が図れていないものがある。 ・必要に応じて規程の見直しを適時に行うなど、運用面と規程との乖離を防止する必要がある。	・特記事項なし。

3. 教育活動

自己点検評価 **A**

A：十分である。**B**：おおむね十分である。**C**：やや不十分である。**D**：不十分である。

点検項目に対する現状認識・課題・今後の改善方策等	学校関係者評価・意見
・それぞれの学科では医療国家資格を養成するための修業年限とカリキュラムを設定し、教育到達レベルを明確にして医療人の人材育成を行っている。それらは授業概要に明文化され、学生へ配布し説明を行っている。鍼灸学科、鍼灸マッサージ学科、柔道整復学科は3年制、理学療法学科、作業療法学科、看護学科は4年制である。鍼灸学科と柔道整復学科は夜間部の課程も併設している。スポーツ医療学科は日本体育協会のアスレティックトレーナーの資格取得を目指す夜間部2年制カリキュラムを組んでいる。	・理学療法士、作業療法士及び看護師は、一般の人々が見てもそれぞれの仕事を理解しやすいが、あん摩マッサージ指圧師、鍼灸師及び柔道整復師は、一見似たようなことをしているため、その違いがわかりにくい。したがって、それらが理解できるような場があれば望

・教育活動はカリキュラムならびに授業概要にそって実施されている。授業評価は専任教員の科目を主として行っているが、すべての科目に対して実施されてはいない。 ・すべての学科で授業評価を計画的に実施し、フィードバックを通して授業の改善に努める必要がある。	ましい。
---	------

4. 学習成果

自己点検評価 **A**

A：十分である。**B**：おおむね十分である。**C**：やや不十分である。**D**：不十分である。

点検項目に対する現状認識・課題・今後の改善方策等	学校関係者評価・意見
・資格取得率と就職率向上対策は計画性をもって行われている。あま指師は 100%、鍼師 89.7%、灸師 91.4%、柔道整復師 68.2%、理学療法士 95.8%、作業療法士 95%、看護師 91.2%の合格率であった。A Tは 12.5%、JATI は 88.9%であった。いくつかの学科では残念ながら全国平均を下回った。就職内定の時期は学科（資格）によって違いはあるものの就職希望者はほぼ全員就職できている。 ・資格試験対策は最上級学年の担任、他の教員が協力し早期から取り組んでいる。教員が作成した模擬試験と業者の模擬試験などを利用して学生個々の状況を把握しつつ、個別指導や補習等の学習サポートに取り組んでいる。 ・就職については担任が面談を行い、学生の希望を聴取したうえで個別指導、就職説明会、職場見学などをおこなっている。 ・成績不良者への個別指導を強化する。また資格取得できなかった場合は、卒業後も引き続きサポートする。	・受験者が学校を選択する際は、入学者数、退学率、資格取得率などを重視するが、最も重要なのは資格取得後の就業環境である。したがって、学校及び業界関係者が一緒になって、どうすべきかを協議する必要がある。

5. 学生支援

自己点検評価 **A**

A：十分である。**B**：おおむね十分である。**C**：やや不十分である。**D**：不十分である。

点検項目に対する現状認識・課題・今後の改善方策等	学校関係者評価・意見
・大学卒業生への単位認定、教育訓練給付金の案内、夜間部の継続的な運営など社会人への学習支援は行っている。教育訓練給付金の指定講座は3年制の学科に限られている。生活環境支援では学校で寮を3棟完備し周辺より低い価格設定で学生へ提供している。 ・中途退学を防止するためのさまざまな学習支援策が講じられているが、退学率は 7.98%と前年度を下回った。学力不足で退学に至るケースが多いものの、学生も多様化しており個別に対応せざるを得ない状況が多々見られる。	・社会人への学習支援の充実によって入学者数等の増加、質の向上につながると良いと思う。

- ・3年制課程の学科では教育訓練給付金の指定講座など社会人への学習支援が充実している。
- ・学生への個別対応だけでなく、保護者と連携した対応により引き続き中途退学者の軽減を進める。また、同窓会との連携強化を図り、同窓会の活動を支援し、卒業生のキャリアアップを支援する。鍼灸、鍼マ、柔整では学外での臨床実習がカリキュラム変更により可能となる情報があるため、その準備を進める必要がある。

6. 教育環境

自己点検評価 **A**

A：十分である。**B**：おおむね十分である。**C**：やや不十分である。**D**：不十分である。

点検項目に対する現状認識・課題・今後の改善方策等	学校関係者評価・意見
・教育上必要な施設設備・教具等の教育環境の整備はできている。教具の中には、経年劣化したものもある。看護学科と理学療法学科の定員増により教具等を追加購入し配置した。定期的な点検に関しては不十分なところもある。修繕などは適宜行っている。また、浜街道沿いにある土地建物を取得して、教育活動を充実させるための活用を検討している。 ・校舎単位で懐中電灯や防災ラジオなどを設置し徐々に防災対策を進めてきた。また夜間部の学生と教員による避難訓練も11月5日に実施した。 ・校外実習等については実習先を確保できている。 ・防災の日には防災訓練を計画実施する等、学生と教職員の意識を高める必要がある。防災・安全管理体制は計画的に見直し整備する。 ・計画的に設備・教具等の点検を行い、経年劣化したものについては計画的に購入し入れ替える必要がある。 ・学生の実習先の確保は引き続き行う。	・災害に遭われた方が、当時実際に動けたのは若い学生達だったとコメントしていた。学生が主体となって防災組織や防災計画を立ててみてはどうか。 ・鍼灸の普及のためには、患者に対し学校附属鍼灸治療院で毎日鍼治療を受けられる環境を提供することが最善ではないか。

7. 学生の受け入れ募集

自己点検評価 **A**

A：十分である。**B**：おおむね十分である。**C**：やや不十分である。**D**：不十分である。

点検項目に対する現状認識・課題・今後の改善方策等	学校関係者評価・意見
・学生募集活動については適切に取り組んでいるが、社会人層入学希望者の減少もあり、募集学科によっては定員充足が非常に厳しい状況となっている。	・県内でも東讃地域では学校の認知度が低いと感じる。

- ・進学媒体・ガイダンス等事業者を介しての取り組みは行っているものの、特に香川県以外のエリアにおける高校教員や有資格者等を介してのアプローチが行えていない。オープンキャンパス参加者の出願移行についても思わしくない学科もある。また、夜間部進学に関しては在校生・卒業生への働きかけも重要となる。
- ・高校に関しては訪問エリア担当を決め、活動時期の計画表を作成して計画的に対応する。教員は主にガイダンス参加や施術所への訪問活動に注力する。オープンキャンパスについては卒業生を招いての企画の検討を行う。

8. 財務

自己点検評価 **A**

A：十分である。**B**：おおむね十分である。**C**：やや不十分である。**D**：不十分である。

点検項目に対する現状認識・課題・今後の改善方策等	学校関係者評価・意見
・ここ数年、学生実員数が減少傾向にあるため、学生生徒納付金収入も減少傾向にあるが、収支バランスは確保できている。 ・個別決裁時に事業内容を精査することにより、結果として、経費節減等の適切な予算執行が確保されている。 ・財務情報公開については、ホームページ等で公開している。 ・財政基盤の安定を図るために、学生数確保に努力しているところであるが、全国の18歳人口が減少過程にある中で本校の学生数も減少傾向にあり、苦戦しているところである。 ・前年度の評価作業で把握した問題点が持越しとなっている。 ・財政基盤安定のためには学生数確保が肝要であり、学生募集の有効策や中途退学防止策を検討する必要がある。	・学生数の減少は収入の減少を意味するから、学生数の動向により注目すべきであろう ・単年度の決算が黒字であるから健全であるというのは短絡的ではないだろうか。学校法人としてではなく、企業の指標で見て経営状況がどうなのかを分析したほうが今の時代には合っているように思う。

9. 法令等の遵守

自己点検評価 **A**

A：十分である。**B**：おおむね十分である。**C**：やや不十分である。**D**：不十分である。

点検項目に対する現状認識・課題・今後の改善方策等	学校関係者評価・意見
・養成校指定規則、指導要領といった法令等の遵守はできている。年度当初の WAMNET を用いた報告も期限内に行っている。 ・毎年5月末までに監督官庁へ WAMNET にて報告しており、学科運営は適正にできている。規程上教員	・特に意見無し

- 数は足りているものの、運営上マンパワーが不足している学科も存在する。
- ・今後も法令順守を行い、自己点検の結果を少しでも改善することに役立てる。

10. 社会貢献

自己点検評価 **A**

A：十分である。**B**：おおむね十分である。**C**：やや不十分である。**D**：不十分である。

点検項目に対する現状認識・課題・今後の改善方策等	学校関係者評価・意見
・社会貢献・地域貢献は概ねできている。 ・学生へはボランティア活動を奨励しており、宇多津町の秋祭りをはじめ、鍼灸・鍼灸マッサージ学科による春秋の小豆島マラソン、作業療法学科では夏季に1年次全員、看護学科では5月の献花祭の後といったように様々な取り組みがある。また学校を会場にした2回/年の日赤の献血へも多くの学生の協力が得られている。 ・教職員については7月の健康で長生きまつり、鍼灸マッサージ学科・鍼灸学科では2月の丸亀ハーフマラソンサポート、献血ルームオリーブでのマッサージ（月2回）を継続的にやっている。 ・これまでの活動を継続し、今後拡大するかどうかも含め検討をすべきと考える。	・地域貢献のうち、近隣地区の清掃活動は単発で全学的に実施するのではなく年に数回「美化の日」を決め、学科・部署単位で実施するほうが良いのではないかと。日頃から「通学路のゴミを拾う」などの小さな意識を継続することが大切だ。 ・幼少期の子供とその保護者対象の地域連携、貢献があっても良いのではないかと。学校の特色をアピールでき学生の経験にもなる。

11. 点検項目（1～10）に関する総括

自己点検評価 **A**

A：十分である。**B**：おおむね十分である。**C**：やや不十分である。**D**：不十分である。

点検項目に対する現状認識・課題・今後の改善方策等	学校関係者評価・意見
・学校評価についての職員の共通認識は浸透してきている。年々教育活動、学習支援、教育環境が整ってきているが、まだ不十分な点が散見される。 ・自己点検評価は学科や部署毎に担当を決め、学科や部署の評価をした後、学校全体のものとしてまとめている。しかしながら、教育関係項目では学科長間での評価基準の違いが明瞭となった。 ・自己点検評価の結果をそれぞれの部署の教職員が共有し、不十分な点を改善に向けて活動できるようにする。	・学校評価は、学校の現状を把握し、問題点・課題等を洗い出して改善を図るという目的がある。改善不可能なものは致し方ないが、改善できるものは、当年度のうちに改善するように求める。

12. 総括

目標達成状況と今後の課題・改善方策	学校関係者評価・意見
＜目標達成状況＞ ②運営面では人事考課制度を H28 年度より試行導入した。2-2-b、2-3-a については、中間評価段階（△）を設けてきめ細やかに評価をしたため、評価が下がった。③教育活動では OJT の実施により 3-10-b（×→○）、他の専修学校各種学校との連携により 3-11-d（×→△）とし「地域に根差した教育」の評価（B→A）を向上させた。⑥教育環境面では夜間部の防災訓練が実施できていなかったことより評価を 1 つ下げた。（○→△）⑦学生募集では、教材費は変動要因が大きいことから募集要項に明記していないので△評価に引き下げた。一方、「子育てや女性の就業支援」については夜間部を存続させることが一定の配慮になっているものと考えて△評価に引き上げた。⑧財務では 8-2-b 執行額を常時予算枠で上限管理する仕組みに至っていないので評価（○→×、8-2 の評価 A→B）を下げた。また、内部監査体系がルール化できていないので△評価にひき下げた。 2. 入学者 303 人以上 業者 WEB 媒体の拡大と OC での理学療法学科と作業療法学科を分けて実施をした結果、看護学科と作業療法学科で入学生を増やしたが、鍼灸学科と柔道整復学科、スポーツ医療学科で社会人の入学生が少なくなり、入学者総数は 238 人であった。年度目標とした数値からは大きく下回る結果となった。（目標達成率は 78.5%） 3. 退学者の低減 4%以内 退学率 4%未満を達成した学科は鍼灸マッサージ学科のみであり、鍼灸学科、柔道整復学科、理学療法学科では目標値を大きく上回る結果となった。学校全体では 7.98%と昨年度の 4.26%に比して大きく後退した。 4. 国家試験合格率 95%以上 資格試験合格率 95%以上という目標は鍼灸マッサージ学科、理学療法学科、作業療法学科で達成した。しかし、全国平均（新卒者）を下回った学科もあったため十分な成果があったとはいえない。 5. 学校創立 60 周年事業の実施 記念事業の組織を作り学園祭の翌日（7 月 2 日）に「健康で長生き祭り」を別館と各校舎を会場として教職員によって実施した。また、11 月 3 日～6 日には別館で「郷土ゆかりの画家 30 人展、園児による未来のアーティスト展」を、平成 29 年 3 月 4 日・5 日は宇多津町保健センターにて“うたづの町家とおひなさん”に参画し「立雛の掛け軸」の特別展示をおこなった。	・当該年度の入学者数、またその入学者のうちの卒業者数、資格試験合格者数をしっかりと管理・把握する必要がある。教育訓練給付金の対象講座（対象校）の要件としてそれらが問われている。 ・本委員会の会議資料は、各学科の評価を集約して学校全体の評価にまとめたものであるとのことだが、学科毎に資料を作成したほうが、それぞれの学科の問題点・課題等が埋没せず、実態を示すことができる。

6. 教育内容の充実 あま指師、鍼師、灸師、柔道整復師の養成校指定規則の改定情報の収集とカリキュラムの検討を行ったが、実習指導者講習会等の情報が不十分であり、申請は更なる情報を待って H29 年度に行うこととなった。 ＜今後の課題・改善方策＞ 1. 入学者 273 人以上 資料請求者の拡大、オープンキャンパスの内容の充実と参加者数の増加等。高校訪問は広報部を含めた事務局内で、理学療法学科・作業療法学科・看護学科はガイダンスへの積極参加を、鍼灸マ学科・柔道整復学科においては卒業生の就職・開業のある施設を中心とした施術所への訪問活動を、夜間部学科の募集について学科間の連携を行いながら併修が増加するように役割分担をして協力する。 2. 退学者の低減 4%以内 学生個々を把握し、保護者と連携を図って早期からの個別対応から退学者の減少に努める。 3. 国家試験合格率 95%以上 全ての学科で 95%以上となるように、在校生の資格試験対策を行う。また、資格を取得できていない卒業生に対しては聴講制度や模擬試験、個別指導などで資格取得を支援する。 4. 鍼灸学科、柔道整復学科の定員変更、Ⅱ部の見直し 5. 養成校指定規則の改正に伴う鍼灸マッサージ学科、鍼灸学科、柔道整復学科のカリキュラム変更と申請手続き 6. 人事考課制度の本格実施 7. 専門職大学（仮称）への移行・参入の検討 8. 周年事業の計画実施（看護 10 周年、理学・作業 20 周年）	
---	--